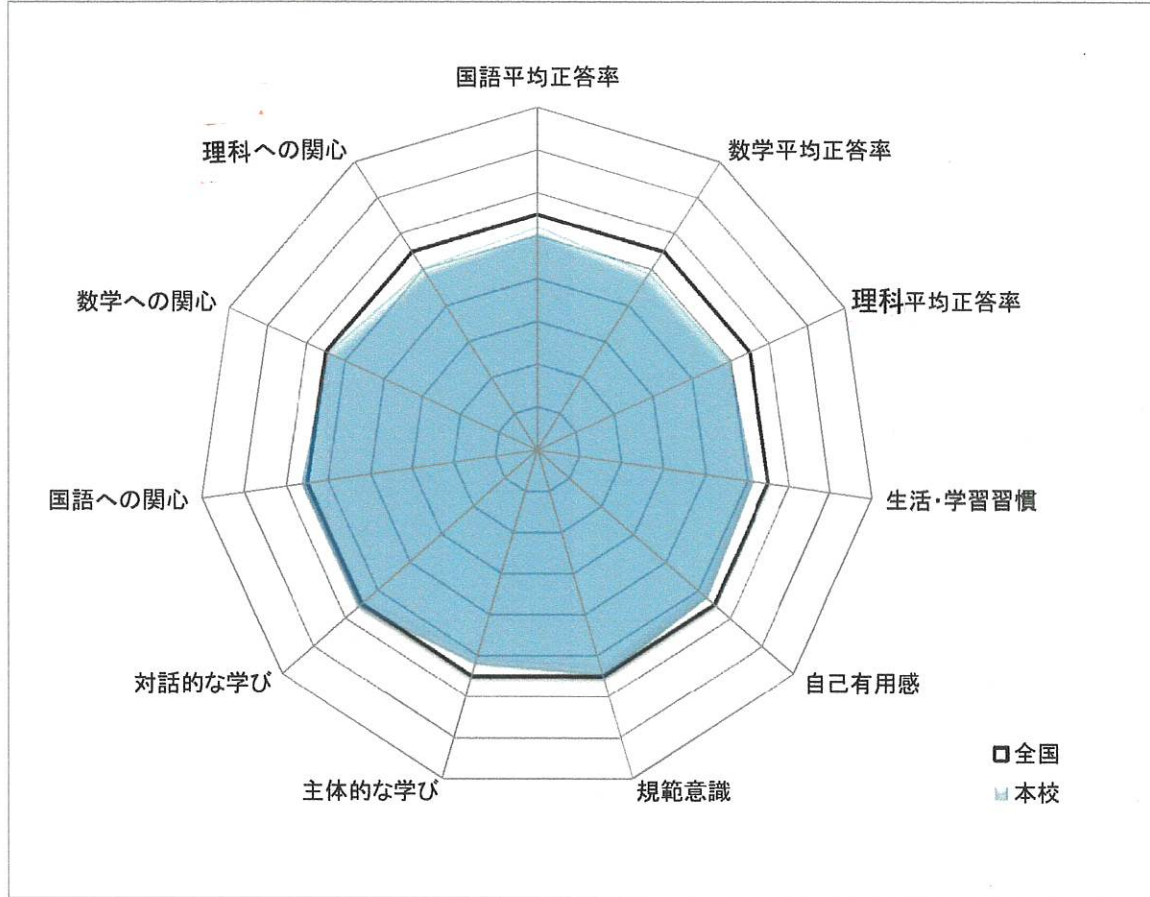


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

各教科の平均正答数では、全国比のマイナス0.6~1ポイント下回る結果となった。国語・数学への関心はほぼ全国平均と同等であるが、正答率は、マイナス4%~6%低い結果となった。逆に、理科への関心は低いものの正答率は、マイナス5%に収まっている。生徒の関心と学力が相関関係となるよう指導方法の工夫・改善が必要である。

《授業改善のポイント》

【国語】漢字の読み書きの定着が不十分であった。改善点として、漢字テストの回数を増やすなどして、漢字の学習を習慣化させる。また、文章や表現の意図について答えることに苦手さを感じる結果となった。改善点として、授業の中で話し合い活動の回数を増やすなどして、〈思考力・判断力・表現力〉の向上を図る。
 【数学】家庭学習の定着がなされないために、反復練習も不足し、基礎基本が身につかない状況がある。タブレットを活用し、学習習慣の定着を図るとともに、反復練習を継続させて向上を図る。
 【理科】学習内容を知識として捉えているだけでなく、問題を読み解く力が不足している。改善点として、実生活での体験や例を活用することで、興味・関心を高めながら、思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的で深い学びの向上を図る。

《チャートの特徴》

理科への関心が若干低いものの数学・国語への関心はほぼ全国基準と同等の結果である。また、対話的な学び・主体的な学び・規範意識なども全国基準と同等であった。しかし、各教科の平均正答率は、全国平均を下回る結果となった。各教科の正答率向上に向けて、家庭での学習習慣の定着が課題である

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の定着に向けて
 ①e-ラーニングを活用した家庭学習の実施
 ②コンテストに向けた家庭での取組
 ③朝読書の徹底における家庭での読書習慣の確立などにより、家庭における毎日の学習習慣の定着を図るよう、学校だより・学年だよりや保護者会等で働きかける。